

2. 本市の概要

2.1 位置・地勢

本市は、愛知県の東南部に位置し、東は弓張山地、南は遠州灘、西は三河湾に面し、延長は東西が 17.8 km で南北が 23.9 km、面積は 261.86 km² (平成 27 年 4 月 1 日現在) で県土全体の約 5% を占めています。地形は概ね平坦で、豊川や梅田川、柳生川などが市内を流下しています。北は豊川市、新城市、西は田原市、東は静岡県浜松市、湖西市に接しています。

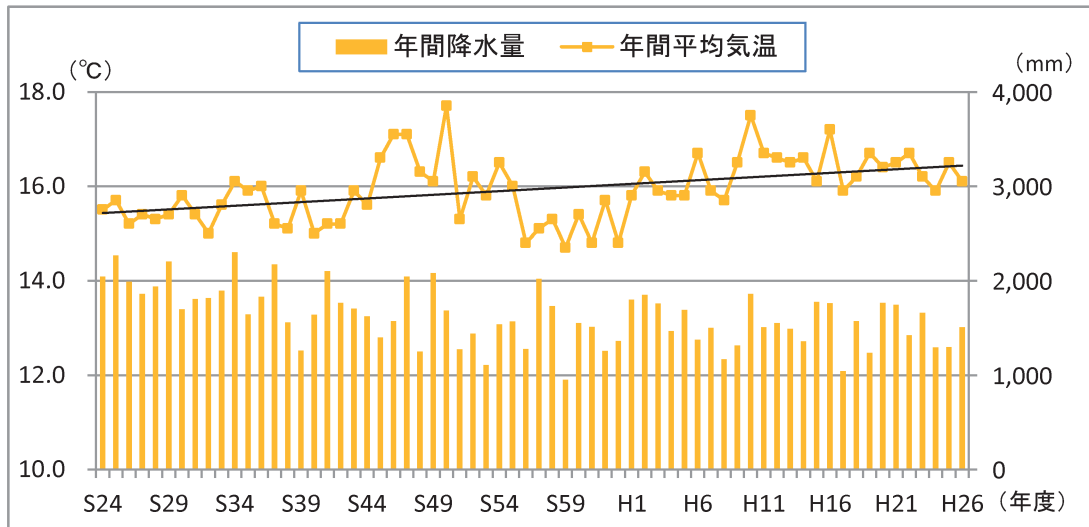


2.2 気候

本市の南には黒潮が流れ、東部から北部にかけては山地に囲まれているため、比較的温暖な気候に恵まれています。冬季には「三河のからっ風」と呼ばれる北西の季節風が吹きますが、積雪はほとんどみられません。

平成 26 年の気温は年平均 16.1 °C、降水量は年間 1,506.5 mm、風速は年平均 3.1 m/s です。平均気温は、昭和 24 年から平成 26 年までの約 60 年間で約 1 °C 上昇しています。

■ 平均気温と降水量の推移



注) 昭和 20 年～50 年は、向山天文台と芦原観測所、昭和 51 年度以降は豊橋市消防本部の観測による。
資料：「統計で見る豊橋の 100 年」、「豊橋市統計書」

2.3 自然

本市は、石巻山を含む弓張山地があり、三河山間部を源流とする豊川が流れ、遠浅な三河湾、黒潮が流れる表浜（太平洋）に接するなど、様々なタイプの自然に恵まれ、それぞれが特徴的な景観や動植物相を形成しています。

地形や地質など地盤の特性、植生や水環境など生物生息空間の特性、農用地や市街地など土地利用特性の違いから、市域全体を「東部丘陵地域」「豊川沿川地域」「三河湾沿岸地域」「中心市街地域」「南部田園地域」「表浜沿岸地域」の 6 つの地域に区分することができます。

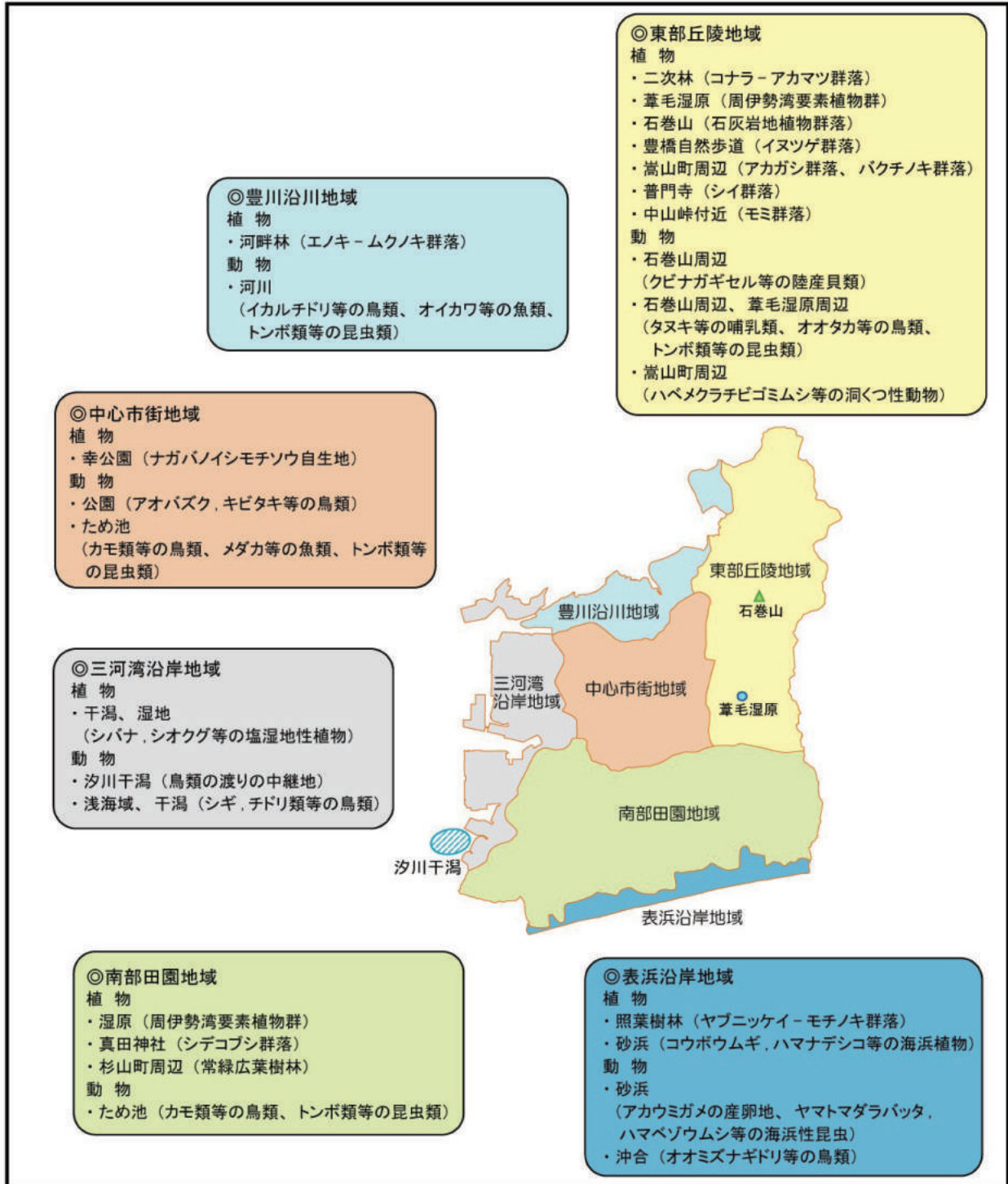
(1) 植 物

この地方の最も特徴的な植物は、全国でも伊勢湾周辺の丘陵地にしか見られない「周伊勢湾要素植物群」と呼ばれる一群の植物種です。本市では主に東部丘陵地域から南部田園地域にかけての湿地に分布しており、代表的な種としてシラタマホシクサやミカワバイケイソウ、シデコブシなどが挙げられます。特に、県指定天然記念物の葦毛湿原では多くの貴重な植物が生育しています。また、石巻山山頂付近の石灰岩地にはイワツクバネウツギなどの好石灰岩地植物が生育しており、石巻山石灰岩地植物群落と呼ばれ、国の天然記念物に指定されています。

(2) 動物

本市の森林には、哺乳類ではタヌキなど、鳥類ではオオタカなどの里山を代表する動物が生息しています。石巻山周辺を生息地とするクビナガギセルなどの陸産貝類は、石灰岩地固有の種として本市の動物相を特徴づけるものです。三河湾沿岸地域の汐川干潟は、シギ・チドリ類が渡来し、東アジアにおける渡り鳥の中継地として重要な役割を果たしています。表浜沿岸は、本州で有数のアカウミガメの産卵地となっています。

■ 本市における自然の概況



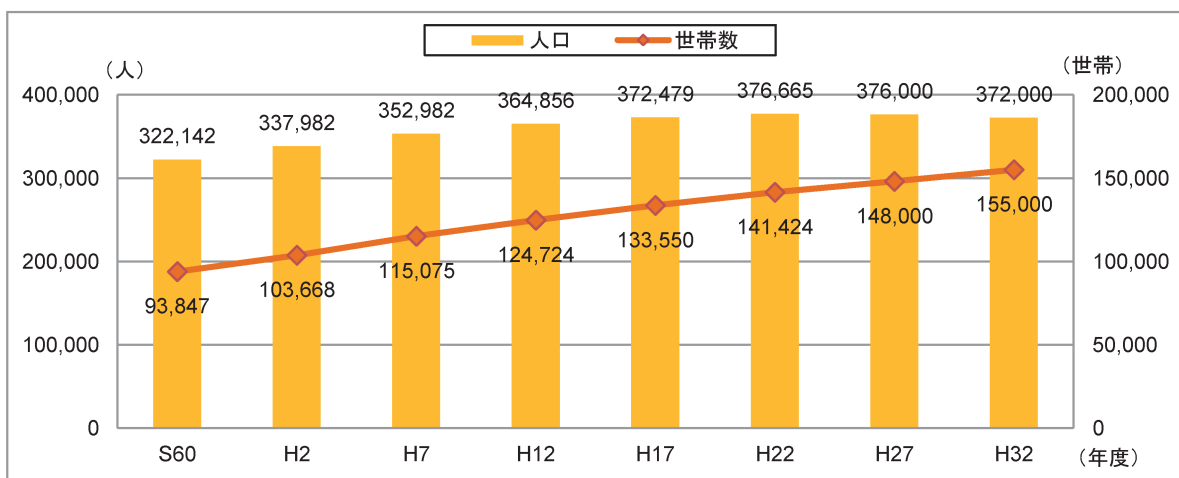
2.4 人口

本市の人口は、昭和 60 年に 322,142 人、平成 22 年に 376,665 人と堅調に増加してきました。しかしながら、出生率の低下などにより、平成 32 年には約 372,000 人になると推計しています。

世帯数は、昭和 60 年が 93,847 世帯、平成 22 年が 141,424 世帯と、核家族化の進行により増加しています。平成 32 年には約 155,000 世帯になると推計しています。

人口の年齢構成をみると、平成 22 年には、年少人口 14.8%、生産年齢人口 64.2%、老年人口 20.1%であるのに対し、平成 32 年には、年少人口 12.6%、生産年齢人口 61.4%、老年人口 26.0%となり、少子高齢化が進行するものと予測しています。

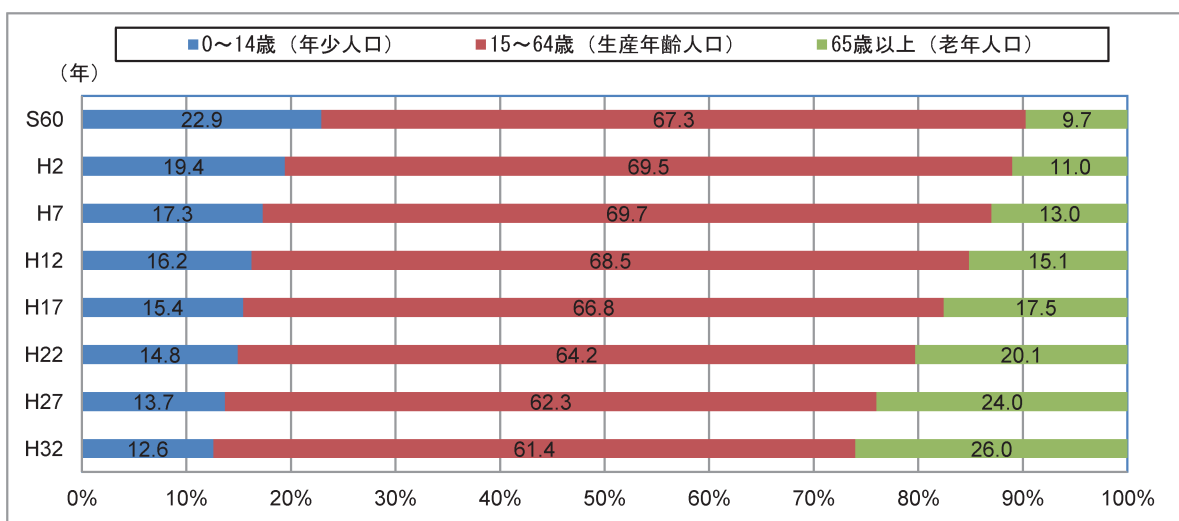
■ 人口と世帯数の推移



注) 平成 27 年度以降は本市推計値

資料: 「第 5 次豊橋市総合計画後期基本計画」

■ 年齢構成の推移



注 1) 平成 27 年度以降は本市推計値

注 2) 小数点以下第 2 位を四捨五入して算出したため、個々の値の合計が 100 にならない場合がある。

資料: 「豊橋市統計書 (国勢調査)」、「第 5 次豊橋市総合計画後期基本計画」

2.5 交通

東三河の玄関口である豊橋駅には、新幹線をはじめ3社6路線の鉄道が乗り入れています。特に、豊橋駅から市東部を通る路面電車は、市民の足としてだけでなく、まちのシンボルとして「市電」の愛称で親しまれています。

市内の道路網は、都市部を中心に放射環状型に広がる一方、中心部を国道1号や国道23号、国道259号などの幹線道路が通過し、市外へとつながっています。

市民の交通手段は、中京都市圏全体と比べ、自家用車の利用率が高く、公共交通の利用率が低い状況です。



駅前大通りを走る路面電車



停留所に停車する路線バス

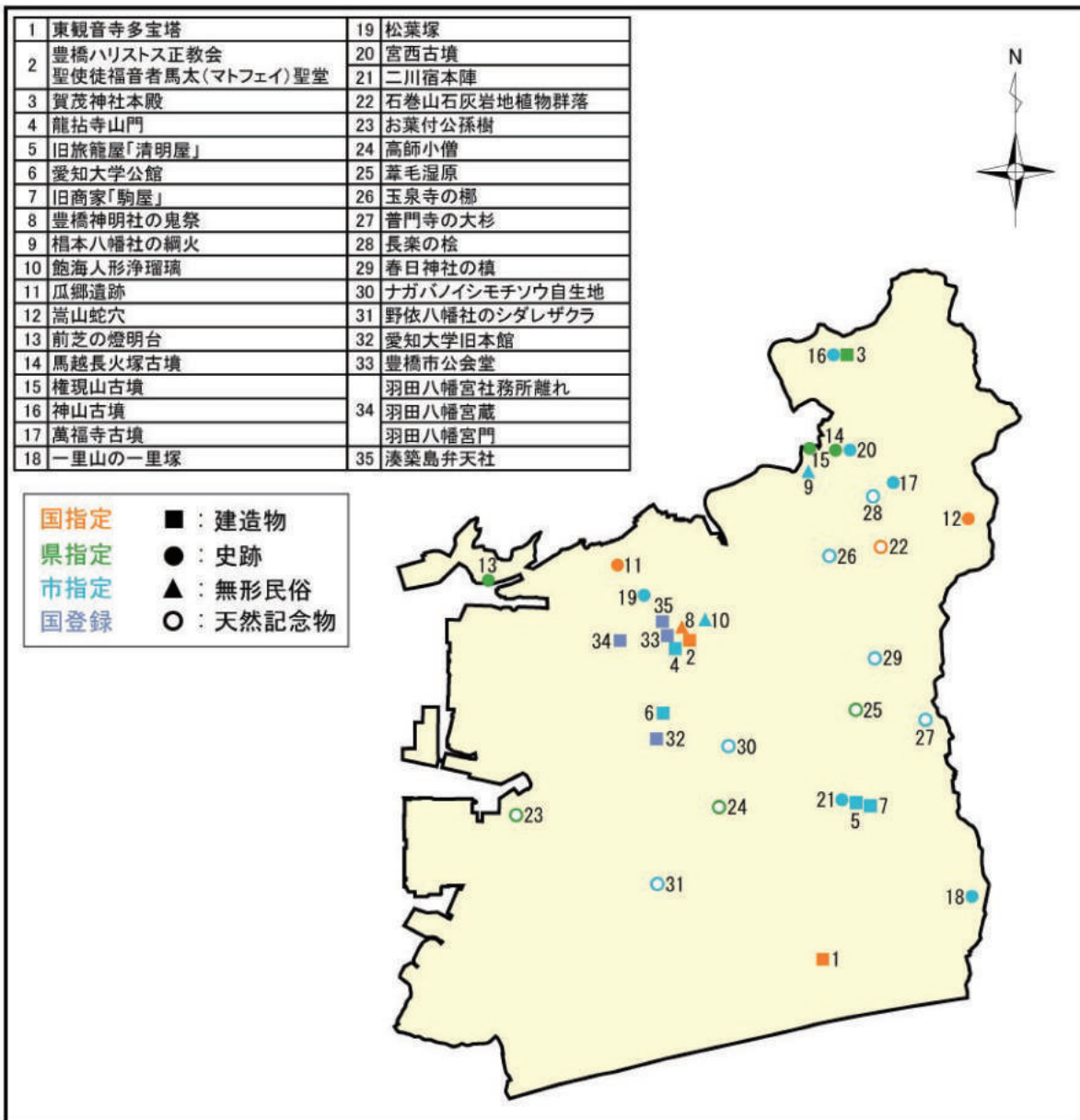
2.6 文化

城下町、宿場町として栄えた本市には、勇壮な手筒花火や重要無形民俗文化財に指定されている豊橋神社（安久美神戸神社）の鬼祭などの伝統文化をはじめ、数多くの神社・寺院、史跡などが残されています。

文化財は、国指定の文化財が 21 件、県指定の文化財が 16 件、市指定の文化財が 78 件、国の登録文化財が 7 件あり、主な文化財としては、東観音多宝塔、瓜郷遺跡、石巻山石灰岩地植物群落などが挙げられます。平成 26 年には、新たに国登録文化財として、西駒屋田村家住宅が登録されました。

また、530（ごみゼロ）運動発祥の地であるなど、市民による活動も盛んに行われています。

■ 主な文化財の位置



2.7 産業

本市の産業は、農業産出額が約 474 億円（平成 18 年）、製造品出荷額等が約 1 兆 1,267 億円（平成 25 年）、商品販売額が約 12,096 億円（平成 26 年）と農業、工業及び商業がそれぞれ盛んで、バランスのよい産業構造となっています。

今後については、各産業とも現状維持から緩やかな増加が見込まれています。

■ 産業別生産額の推移

単位：百万円

区分	農業産出額	製造品出荷額等	商品販売額
平成9年	54,584	1,144,197	1,606,154
平成11年	52,686	1,024,943	1,589,908
平成14年	53,839	990,215	1,147,551
平成16年	51,350	1,143,957	1,198,207
—	47,380 (平成18年)	1,126,698 (平成25年)	1,209,593 (平成26年)

注1) 商品販売額は平成14年から分類方法が変更

注2) 平成19年より市町村単位農林水産統計調査が中止

資料：「豊橋市統計書（農林水産統計、工業統計、商業統計）」、
「商業統計調査」

2.8 土地利用

土地の利用状況は下表のとおりで、平成 25 年度においては、畑の構成比（23.7%）が最も高く、山林（18.1%）と田（9.7%）をあわせて全体の約 52%を占めています。平成 16 年度と比較すると、工業用地や公的・公益用地が増加する一方で、田やその他の自然地などが減少しており、都市的な土地利用が進行したといえます。

■ 地目別土地面積の構成比

区 分	平成16年度		平成25年度	
	面積(ha)	割合(%)	面積(ha)	割合(%)
田	2,763	10.6	2,532	9.7
畑	6,194	23.7	6,197	23.7
山林	4,621	17.7	4,735	18.1
水面	857	3.3	800	3.1
その他の自然地	1,941	7.4	1,773	6.8
小 計	16,376	62.7	16,037	61.4
住宅用地	3,301	12.6	3,320	12.7
商業用地	753	2.9	751	2.9
工業用地	1,222	4.7	1,487	5.7
公的・公益用地	689	2.6	813	3.1
道路用地	2,401	9.2	2,493	9.5
交通施設用地	101	0.4	122	0.5
公共空地	321	1.2	374	1.4
その他の空地	964	3.7	736	2.8
小 計	9,752	37.3	10,096	38.6
合 計	26,128	100.0	26,133	100.0

資料：「都市計画基礎調査」